



なかちゃん とよちゃん

とっぴー

市の車に、こんなステッカーを見つけたよ



ここにもワニ!



こんなマンホールが、市内には339個あるんだって



豊中市のあちらこちらで、ワニのイラストを見かけたことはありませんか。大むかし、豊中には体の長さがおよそ7メートル、教室の横はばくらの長さの大きなワニがすんでいたのです。



昭和39年(1964)、待兼山町にある大阪大学で、2人の学生が、ひとかけらの化石を見つけたことでした。はじめはゾウの化石と考えられていましたが、くわしく調べてみると、せなかや頭などのほね、うろこ、きばがつぎつぎと見つかり、なんと30〜50万年前に生きていたワニであることがわかりました。今生きているワニもふくめて、世界でもっとも大きなワニの一つです。化石が見つかった場所にちなんで、「マチカネワニ」という名前がつけられ、豊中を代表するキャラクターになりました。

マチカネワニの化石のほんものと

ちようさ 調査メモ

おおさかだいがくそうごうがくじゆつはくぶつかん 【大阪大学総合学術博物館】

まちかねやまちよう 待兼山町1-5 ☎6850-6715

見学時間は10時～16時(12時～13時は休み)、土曜・日曜日、祝・休日は休み。入場料はいりません。ホームページアドレスは、<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



見つかった化石をもとに作られた、マチカネワニのほね組みのもけい

ほね組みのもけいは、大阪大学にある総合学術博物館で見ることが出来ます。また青年の家いぶき(服部西町)にも、もけいがあります。